

## 要 望 活 動 報 告 書

実 施 日	令和3年11月1日（月）付け
要 望 者	郵送により、要望書を提出しました。
要 望 先	<b>【東日本高速道路株式会社】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・本社（東京都）</li><li>・東北支社（宮城県仙台市）</li><li>・新潟支社（新潟県新潟市）</li></ul>
要 望 事 項	「会津を拓く重点要望事項」 <ul style="list-style-type: none"><li>・磐越自動車道の完全4車線化の早期実現等について</li></ul> <u>※詳細につきましては、要望書をご覧ください。</u>

# 東日本高速道路株式会社

様

## 「会津を拓く重点要望事項」



### 会津総合開発協議会

【構成市町村】

会津若松市

猪苗代町

三島町

喜多方市

北塩原村

金山町

下郷町

西会津町

昭和村

檜枝岐村

会津坂下町

会津美里町

只見町

湯川村

南会津町

磐梯町

柳津町

表紙の「」は昭和47年公募により制定された会津総合開発協議会のシンボルマークです。

会津総合開発協議会は、誇りうる郷土会津の輝ける明日を拓くため、「会津はひとつ」の理念のもと、昭和38年に当時の全会津28市町村が集結し結成した団体です。これからも、郷土愛と地域開発へのあふれる情熱、そして各市町村の強固な結束力を糧として、郷土の発展を願い活動してまいります。

# 要 望 書

会津地方の振興につきましては、日頃より特段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

豊かな自然と歴史、文化に恵まれた会津地方は、全国有数の観光地であるとともに、高速交通時代に対応した磐越自動車道や会津縦貫北道路、そして日本で最初のコンピュータ理工学を専門とする会津大学など、先人たちが築きあげてきた貴重な財産があります。

その一方、会津地方における少子化・高齢化は加速度的に進行しており、社会保障費の増大や地域社会の活力の低下、依然として継続している原子力発電所事故の風評被害、さらには、新型コロナウイルス感染症の影響など、地域課題が山積し、コロナ禍を契機に社会全体が大きく変化している中、「新たな日常」へ向けたデジタル化の推進など、地方においても自らを改革していく必要があります。

このような中、住民が安心・安全に暮らせる生活基盤を整備するとともに、地域資源を活かした活力ある産業を創出し、豊かで美しい自然や伝統文化の継承を通して魅力ある地域社会を実現するためには、市町村はもとより、国県をはじめとする関係機関、さらには地域住民との連携・協力のもと、多種多様な施策の展開が求められております。

つきましては、各種施策の実行と予算の確保にあたり、特段のご支援、ご高配を賜りますよう、全会津17市町村の首長並びに議会議長により組織する会津総合開発協議会として強く要望するものであります。

令和3年11月1日

会 津 総 合 開 発 協 議 会

会長 会津若松市長 室 井 照 平

会津総合開発協議会 会員名簿

( 市町村長 )

( 市町村議会議長 )

会津若松市長	室 井 照 平	会津若松市議会議長	清 川 雅 史
喜多方市長	遠 藤 忠 一	喜多方市議会議長	
下郷町長	星 學	下郷町議会議長	小 玉 智 和
檜枝岐村長	星 明 彦	檜枝岐村議会議長	星 松 夫
只見町長	渡 部 勇 夫	只見町議会議長	大 塚 純一郎
磐梯町長	佐 藤 淳 一	磐梯町議会議長	鈴 木 久 一
猪苗代町長	前 後 公	猪苗代町議会議長	渡 辺 真一郎
北塩原村長	遠 藤 和 夫	北塩原村議会議長	小 椋 眞
西会津町長	薄 友 喜	西会津町議会議長	清 野 佐 一
会津坂下町長	古 川 庄 平	会津坂下町議会議長	水 野 孝 一
湯川村長	三 澤 豊 隆	湯川村議会議長	斎 藤 賢 一
柳津町長	小 林 功	柳津町議会議長	伊 藤 昭 一
三島町長	矢 澤 源 成	三島町議会議長	青 木 喜 章
金山町長	押 部 源二郎	金山町議会議長	五ノ井 義 一
昭和村長	舟 木 幸 一	昭和村議会議長	馬 場 政 之
会津美里町長	杉 山 純 一	会津美里町議会議長	谷 澤 久 孝
南会津町長	大 宅 宗 吉	南会津町議会議長	室 井 嘉 吉

## 最重点要望事項

### 磐越自動車道の完全4車線化の早期実現等について

磐越自動車道（延長約212.7km）は、福島県と新潟県を結ぶ高速交通の大動脈であり、常磐自動車道、東北自動車道及び北陸自動車道と広域ネットワークを形成し、東北地方の経済・産業・文化等の発展に大変重要な役割を果たしています。

また、平成16年の新潟県中越地震発生時においては迂回路として、平成23年の東日本大震災時においては緊急交通路に指定されるなど、重要な物流経路であります。

しかしながら、現在、会津若松IC～新潟中央JCT（95.2km）間においては、中央分離帯の無い片側1車線の対面通行区間を含む2車線の区間があり、死亡事故が発生するなど安全性や走行性、大規模災害時の緊急応急対策等における課題が顕在化しています。

このような中、令和元年9月に4車線化の優先整備区間として選定された会津若松IC～安田IC間のうち、会津坂下IC～西会津IC（7.1km）間及び西会津IC～津川IC（8.8km）間については、令和2年3月に、また、会津坂下IC～西会津IC（1.7km）間については、令和3年3月に国土交通大臣からNEXCOへ事業許可が行われ整備計画が加速化されたところであります。

この区間が4車線化されることにより、安全性の向上や通行止めの抑制、速度規制の見直し（毎時70kmから毎時80km）による走行時間の短縮など大きな効果が期待されます。

つきましては、会津地方が日本海側と高速4車線という大動脈で結ばれることは、当地方の発展にも不可欠であり、また、国土強靱化法の理念に合致する災害時の補完道路としての機能も強化されることから、下記の事項を強く要望いたします。

#### 記

##### 1 磐越自動車道の完全4車線化と工事着工について

社会資本整備審議会において暫定2車線の課題として示された時間信頼性の確保、事故防止の観点及びネットワークの代替性確保の観点並びに大規模災害時の早期復旧の観点から、暫定2車線区間である会津若松IC～新潟中央JCT（95.2km）間を、早期に完全4車線化すること。

特に、優先整備区間に選定された会津若松ICから安田IC間のうち、事業化区間となった「会津坂下ICから津川IC間」の早期着工と完成を図ること。

また、安田ICから新潟中央JCT間についても、優先整備区間へ格上げし、早期に4車線化の整備を図ること。

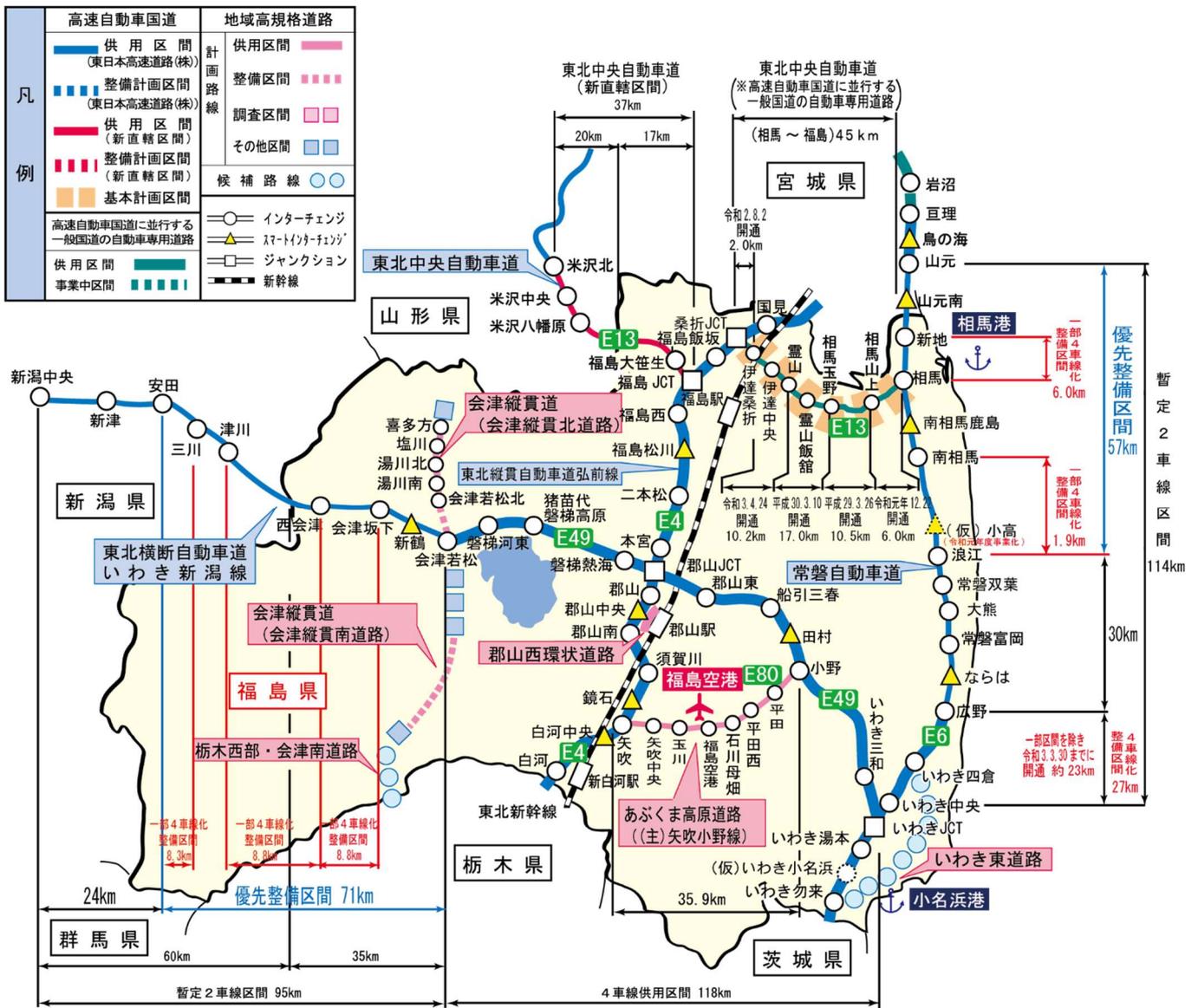
2 付加車線の先行増設対応について

完全4車線化されるまでは、暫定2車線区間は渋滞が生じやすいことから、渋滞緩和のための付加車線を先行して増設を図ること。

3 会津地方への観光支援について

東日本高速道路株式会社で展開している「ETC周遊割引プラン」において、首都圏から会津地方への利用を促す割引プランを創設し、会津地方への誘客と観光振興の支援に努めること。

○磐越自動車道4車線化必要区間



(上記提供元) 福島県